

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670400803
法人名	有限会社 敬愛会
事業所名	グループホームこもれびの家
訪問調査日	平成 21 年 3 月 30 日
評価確定日	平成 21 年 5 月 8 日
評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 5月8日

【評価実施概要】

事業所番号	670400803		
法人名	有限会社 敬愛会		
事業所名	グループホームこもれびの家		
所在地 (電話番号)	山形県米沢市大字花沢3612-1 (電 話) 0238-37-8065		
評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成21年3月30日	評価確定日	平成21年5月8日

【情報提供票より】(平成21年2月17日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 6月 14日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 12人, 非常勤 2人, 常勤換算	12人

(2)建物概要

建物形態	併設 / ○単独		新築 / 改築
建物構造	木造		造り
	2 階建ての		階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 100 円
	または1日当たり 860 円		

(4)利用者の概要(2月 17日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.2 歳	最低 67 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	舟山病院 田中クリニック 笹生歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「こもれび」木々の枝や葉の間から差し込んでくる優しい日差し、人の心を和ませてくれる家庭の温かさをを感じさせられます。ユニット名も職員全員で考え「実」がなるもの「ぼふら」「くるみ」と、ひらがなで柔らかさを引き出しています。家事や趣味を楽しみ、本人の持てる力を発揮できるよう学習療法等も取り入れ「生活リハビリ」に活かされています。常に寄り添い「傾聴」を大事な基本とし、「生き生きとした表情や笑顔が見たい」と居室担当者を中心に利用者との信頼関係が出来ており、職員全員一丸になり「その人らしく暮らしていくために」力を注いでいるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域の中で安心して暮らし続けることができるよう生活を支える支援に取り組み、利用者にはゆとりを持って接し、家族等には話しやすい雰囲気と環境づくりに留意し、職員の意識を高めながら順次取り組まれている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	サービス評価を行なうことの意義を理解し前向きに捉え、多方面からの視点と同時に振り返りの機会を持つことができ、職員一人ひとりの意識の高揚と、日々の関わりを大事にし、サービスの質の向上に活かしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議は2ヶ月に1回、地元市議会議員、町内会長、民生委員、家族代表、利用者代表、ホーム関係者等のメンバーにオブザーバーとして市の担当者も出席し行なわれている。ホームに対する意見や要望の他に地区管内の環境整備等の身近な話題と豊富に出され双方向的な会議になるよう配慮している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	事務室前には意見箱の設置をしている。面会時や行事に合わせ家族等との交流を設け、何でも話せる雰囲気作り心がけ、個室やホール等の場所の設定にも配慮し、家族等より出された意見、要望等は記録に残し、ホーム全体、各ユニットとそれぞれの申し送りノートを活用し、確認印をしながら共有を図り、運営に反映できるよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地区の行事はあまり行なわれてはいないが、ホーム主催の夏祭り、芋煮会等には町内会全員に案内をし地域の人からは楽しみにされている。また、運営推進会議等の中で働きかけ、地区の防災体制の避難場所として提供をしている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スローガン、法人理念をそれぞれに掲げ、さらに実践を通し月の目標を掲示し、職員の自己啓発を図りながら、地域生活での継続を支える取り組みをしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を噛み砕いたスローガンを毎日唱和し「笑顔でいてほしい」と表情の変化、気づきに共有しながら実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の行事はあまり行なわれてはいないが、ホーム主催の夏祭り、芋煮会等には町内会全員に案内をし、地域の人からは楽しみにされている。また、運営推進会議等の中で働きかけ、地区の防災体制の避難場所として提供をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を行なうことの意義を理解し前向きに捉え、多方面からの視点と同時に振り返りの機会を持つことができ、職員一人ひとりの意識の高揚と、日々の関わりを大事にし、サービスの質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、地元市議会議員、町内会長、民生委員、家族代表、利用者代表、ホーム関係者等のメンバーにオブザーバーとして市の担当者も出席し行なわれている。ホームに対する意見や要望の他に、地区管内の環境整備等の身近な話題と豊富に出され、双方向的な会議になるよう配慮している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、日頃よりホームの情報提供や介護相談員の受入等を有効的なものにし、相互に連携を図り関係作りに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や月に1回は必ず身体や生活の様子等を細やかに報告をし、2ヶ月に1回発行される機関紙では、写真を交えた暮らしぶりを紹介し送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務室前には意見箱の設置をしている。面会時や行事に合わせ家族等との交流を設け、何でも話せる雰囲気作りに心がけ、個室やホール等の場所の設定にも配慮している。家族等より出された意見、要望等は記録に残し、ホーム全体、各ユニットとそれぞれの申し送りノートを活用し、確認印をしながら共有を図り、運営に反映できるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の顔なじみの職員の関わりを大事とし、居室担当制を取り、継続的に支える体制づくりに留意している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会等の案内は常に見れるよう職員ステーションに掲示し、希望に添った研修を受講できるようにしている。各ユニット共通のテーマによる内部研修会も行ない、居室担当制としての職員一人ひとりの支援目標・自己評価を自己研鑽につなげ、共有を図り、職員の輪を大切にしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会の交換研修の受入、3ヶ月に1回開催される置賜ブロック研修会への参加をしている。また、同地区内にあるホームとの相互訪問等を行ない交流や連携を図り、日々のサービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○ 馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	土地柄による習しや郷土料理、裁縫、自家菜園の草取りなど特技や得意分野を引き出し、情報を共有し、生活の知恵を教わりながら、時間に縛ることなくゆっくりと話を聞く、「傾聴」に心がけ、一人ひとりの個別ケアを大事にし、共に支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、「思い」をキャッチすることを重要とし、アセスメントはセンター方式を取り入れ「24時間アセスメント」等を記録し、1日の過ごし方を把握している。特に居室担当職員はメンタル部分等を見逃さじよう細心に留意し、気づきや情報を職員全員で共有し、生活を支えることのチームワークが出来ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者自身のレベルを保ち続けながら、日々の生活ができるだけ楽しんでもらう事を職員全員で共有し、利用者、家族等を含めて主治医の意見が話し合いの中では大きな存在となり、反映に活かされている。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月を設定しているが、状況に応じた臨機応変な取り組みと同時に、特に変化のない場合にも、病気の再発防止や、健康管理に配慮した介護計画の見直しができている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	受診時の付添いは、家族が同行する場合と職員も一緒 に同行するといった状況に応じての対応ができてい る。受診時の情報や服薬に関しても、申し送りノート をフルに活用し必ず確認印を義務づけての支援がみ られる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	事業所のできることを、できないことを含め、利用者家 族等のかかりつけ医との話し合いを頻回に行ないなが ら、医師の判断で「食事が取れなくなった状態」での転 院や退所を入所時に了解してもらっている。職員全員 が「普通救命講習修了証」を取得し、十分な連携を取り ながらチームでの支援に取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	個人情報保護法の学習会もあり、各職員との契約を結 び周知徹底した中で、利用者がどのような状態におか れても、声がけや対応の仕方で自尊心を傷つけないよ う配慮しての支援がみられる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	リハビリ体操や歌を歌ったりのように全員での一日の流 れは持っているが、利用者一人ひとりのペースを崩さ ず守りながら個別性のある支援を行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りは職員が当番制にしており、毎日の買い物は、利用者の食べたい物や作ってみたいもの、あるいは旬の食材を取り入れたり、行事食を楽しんだりしている。食後には各自のできることをしてもらい、ゆったりとした利用者ペースでの関わりができています。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの意向を確認しながら、週に2回は入浴してもらうようにしている。拒否傾向の利用者には、無理強いせずに時間や順番を変えてみたり、言葉かけや対応の工夫など利用者にあわせた入浴支援になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の気持ちを活かし、また活力を引き出す事のひとつとして、テーブルを囲み思い思いの楽しみごとをしている。ゆっくりと自分のペースで新聞を読む人、大きな字で印刷された算数と国語のテキストに頑張る人、葉書を書く人と、まさに張り合いや喜びへの支援を職員間で共有し、しっかり行なっている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に添った買い物や、周辺への散歩が行なわれ、散歩の途中で出会う地域の方へ声がけや、ひと休み時にちょっと腰かけさせてもらったりと交流もあり、その時々状況にあった外出支援ができています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	開所1年は施錠もなく経過したが、その後事故が生じ、アンケートの結果、家族等からの安全性を第一に現状を維持(10時～16時開錠)して欲しいとの声も聞かれ、昨年から改善点にもなっているが、中庭をフルに活用し、天気の良い日には昼食会やラジオ体操、また合同でのレクリエーションを行ない外に出る回数を増やし、利用者の気分転換を図りながら、今後も徐々に時間延長等も検討中である。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は消防署の協力を得ながら、利用者と職員が一緒に参加しての避難訓練を行っており、地域にも働きかけをし、連絡網はこれから出来る予定になっている。夜間想定訓練はまだ実施されていないが、職員が慌てないで対応する場面等を、今後数回に分けシミュレーションしていく事も考慮中である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、バランス、水分量の確認をしながら、好みのものや利用者にとっておいしいものを食べてもらうなど様々な面からの支援がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事をとり込んだ作品を手がけ、季節感を感じてもらったり、共有スペースの畳み敷きコーナーには冬場はコタツが登場し、暖かい雰囲気作りが見られたりと工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洗面台付きの為、湯の温度や水の出しっぱなしや、物をつまらせたり等への配慮がみられ、利用者が落ち着いて安全に過ごせるように、居室担当者としての関わり面が良くでている。		